



おくすり通信

No. 37 利尿薬

こんにちは、薬剤科です。4か月にわたって血圧を下げる薬について説明してきました。今回は体液量を減少させて血圧をさげる「利尿薬」についてご紹介していきます。

《ループ系利尿薬、サイアザイド系利尿薬》

体内にはNaが存在し、様々な役割で用いられています。体内のNa濃度は一定に保たれており、塩分を摂りすぎると、体内の水分を増やすことでNa濃度を下げようとします。水分は腎臓で吸収され、余分な水分は尿として排泄されます。尿を作り出すには心臓により血液が送り出される必要があります。ここで水分が増加していると、心臓が送り出す血液量が増え、心臓の負荷が増大します。その結果、血圧が上昇します。

「ループ系利尿薬」や「サイアザイド系利尿薬」を使用すると、腎臓でNaと水分の再吸収を抑制して、尿として排泄させることで血圧を下げます。少量でも十分な効果を得られるため、他の降圧薬で効果が不十分な場合に組み合わせることが多いです。副作用は血中のK濃度が低くなる「低K血症」が挙げられます。これはNaを排泄する過程で、Kも排泄してしまうことが原因となります。定期的を受診して、採血の結果を確認していく必要があります。

《K保持性利尿薬》

体内には腎臓でNaの再吸収を促進させるホルモン「アルドステロン」が存在します。このホルモンは腎臓でNaや水分の吸収を促進して、血圧を上昇させるはたらきがあります。「K保持性利尿薬」はこのアルドステロンの働きを抑えて、Naや水分の吸収を抑制します。またK保持性利尿薬はループ系、サイアザイド系利尿薬の副作用である「低K血症」を起こさずに、尿量を増やして血圧を下げるすることができます。一方、逆に血中のK濃度が高くなる「高K血症」になることがあるため、定期的には血清K値を確認する必要があります。

《利尿薬の種類》

利尿薬には「サイアザイド系利尿薬」、「ループ系利尿薬」そして「K保持性利尿薬」の3種類があります。以下に各利尿薬の特徴をまとめましたので、参考にして下さい。

	一般名	商品名	特徴
サイアザイド系	ヒドロクロロチアジド	ヒドロクロロチアジド	配合錠に使用されていることが多い。
	トリクロルメチアジド	フルイトラン	処方されることが多い利尿薬。
	インダパミド	ナトリックス、テナキシル	使用実績が多く、効果持続時間が長い。
ループ系	フロセミド	ラシックス	利尿作用は強力だが、血圧を下げる効果は弱い。使用実績が多い利尿薬。
K保持性	スピロラクトン	アルダクトン	性ホルモンにも影響し、乳房化の副作用がある。
	エプレレノン	セララ	アルドステロンにのみ作用する。
	エサキセレノン	ミネプロ	糖尿病や中度の腎機能障害の人にも使用できる。
	トリウムテレン	トリテレン	Naの再吸収を抑制する作用もある。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。